

# 甲状腺外科草子 75

## 飛行機嫌いの名機探訪：太刀洗

杉野 圭三

戦前、福岡県筑前町には陸軍太刀洗飛行場が存在した。大正 8 年（1919）に完成し、第二次大戦中は隼、飛燕、屠龍、疾風などが運用され、海軍の飛行機開発も進められた。

現在この地には、**太刀洗平和記念館**が創設され貴重な資料が展示されている。この地へのアクセスは JR 鹿児島本線基山駅で甘木鉄道へ乗り換え太刀洗駅まで行くのが簡単である。駅前には T33 練習機が展示されている。



太刀洗駅前の T33 練習機 屋外展示のMH2000

記念館の**陸軍 97 式戦闘機**は、1945 年 4 月、特攻命令を受けた渡辺利廣少尉操縦の機体で博多湾に不時着、現存する唯一のものとされる。2 枚プロペラの旧型機で当時の米軍戦闘機から見れば練習機のような物である。



陸軍 97 式戦闘機（唯一の現存機）



零式艦上戦闘機 32 型（唯一の現存機）

零式艦上戦闘機 32 型も展示されている。初期の 21 型を改良し翼端を切り落とした形状となっている。初期型の欠点であった急降下による機体破壊を防ぎ、制限速度が改善されたが航続距離短縮が不評で短命であった。

この機体も、南方のタロア島で発見された現存する唯一の貴重なものである。

最近、大戦末期に開発が進められた**震電**が復元・展示され大きな話題となった。

昭和 18（1943）年、海軍空技廠の**鶴野正敬**技術大尉（昭和 14 年東大工学部航空学科卒）を中心に、エンジンを後部に配置するエンテ型航空機の開発が進められた。効率的で高速が期待される形式だが、前例がなく開発は難航した。しかし、驚異的突貫作業で昭和 20 年 6 月に第一号機が完成、8 月 3 日に初飛行が行われた。残念ながら本格的飛行実験の前に終戦となり、設計通りの 740km を超える高速飛行が可能かどうかは不明となった。



空技廠関係者、米兵、鶴野正敬少佐（左から 4 人目）

プロペラを後部に配置する形態は現在、無人機に採用され優秀性が証明されている。



MQ-1 プレデター



MQ-9 リーパー

復元・展示された震電は美しく、日本の飛行機開発技術の高さを物語る機体であった。



復元・展示された震電

参考資料：海軍局地戦闘機（野原茂）、Wikipedia

（一甲状腺外科医の徒然なる随想）

2022 年 9 月 29 日